

10代・20代と考える これからのボランティア

ボランティアに参加する機会が増えてきた10代、20代。

勉強、仕事に加えてボランティア活動を日々の暮らしに取り入れている5人に集まっていただき、体験談やボランティアの魅力について語っていただきました。自分らしい居場所を見つけた人、人見知りを取り除いた人…。地域に目を向けるようになったり、意外な出会いで価値観が変わったり…。わくわく、うきうきする話題が飛び交いました。

やってみたいけどちょっと勇気がないな、と迷っている人!ボランティアのハードルなんて、軽やかに飛び越えてみませんか。

(この記事は2015年11月29日に開催した座談会を要約したものです。)

人と、社会と関わる楽しさ

司会 最初に、みなさんのボランティア活動との関わりについて教えてください。

黒川 中学1年生の時に、学校でジュニア奉仕団に所属しました。そこで、人と触れあう楽しさ、社会貢献ができる楽しさを実感して、今まで約9年間ボランティアを続けています。国際協力や障害者福祉に関する活動に関わったり、東日本大震災の時に東北に行ったり、防災イベントに関わったり…今、大学では児童館で子どもたちと手作りのおもちゃで遊ぶ活動をしています。いろいろなボランティアを続けてきたことは、すごく意味があったかなと思っています。

佐藤 ボランティアを始めたのは、大学1年生の11月頃。入学して充実感を感じていないなと考えた時に、大学生だからできることや人と関わることをあまりしてこなかった

と気づいた。そんな時にボランティア協議会の存在を知って、ボランティアを通して人と関われるかなという思いがあった。正直言うと、自分の充実感だけを求めて始めました。だから今、協議会の会長になっているのが信じられない。スタッフは300名ほどで、清掃活動やペットボトルのキャップを集める環境部門、小学校のあいさつ運動や防犯パトロールをする地域安全部門、被災地で復興支援を行う災害復興部門など幅広く活動しています。

下郷 高校は国際交流が盛んで、月に1回くらい海外の人が来て、授業でいろいろお話しされて、国際交流に興味を持ちました。先輩が団体を設立すると聞いて、参加しました。国際ボランティアに特化した活動で、3カ月に1回のペースで企画を立ち上げて、どんどん実行します。例えば物資支援としてバングラデシュやブラジルに文房具を送ったり。バングラデシュには、募金で東北のお菓子を買って送りました。東北の支援にもつながり、バングラデシュの子どもたちの支援もできるという、2つおもしろい企画です(笑)。また、オリジナルフェアトレードコーヒーを開発して、販売をしています。

藤本 大学生になるまでボランティア経験はありませんでした。大学のコミュニティ・コラボレーションセンターに行って、スタッフや先輩たちのキラキラした目に触れ、ボランティアに魅力を感じて、自分もそうなりたい、楽しくてパワーあふれるところに行きたいと思いました。食べ物に興味があるので、長久手市の農家さんと一緒に有機農法でお米を育てる「こめこめくらぶ」という活動や名古屋コーチンをソウルフードにという「名古屋コーチンもりあげ隊」の活動に関わってきました。自分のボランティア経験を学生に伝えていこうと、コミュニティ・コラボレーシ

- 参加者
- 名古屋学院大学 うかれ 黒川 さくらさん
 - 名城大学ボランティア協議会 佐藤 和也さん
 - 名古屋高校生国際ボランティア団体 どえりやあwings 下郷 遥さん
 - 愛知淑徳大学 コミュニティ・コラボレーションセンター 藤本 涼子さん
 - NPO法人 チャイルドラインあいち 松尾 章央さん
- (肩書きは開催当時のものです)

司会 NPO法人 ボラみみより情報局 大田 哲嗣



ンセンターで学生スタッフとして活動しています。

松尾 学生の頃は愛知県のユースワーカーや障害を持つ方のガイドヘルパーとか、いろいろやっていたのですが、今、唯一続いているのがチャイルドラインあいちの活動です。18歳以下の子もたちがかけてくる電話の受け手の養成に関わっています。子どもが今どういう状況なのかを知ってもらうことも大事な役割なので、イベントにブースを出して、社会認知に努めています。自分たちの団体は「聴く」ということが大事なので、他の団体にノウハウを伝えることにも取り組んでいます。

しんどさにまさるもの

司会 ボランティア活動を続けてきてよかったこと、またつらかった経験はありますか。

黒川 中学3年間、身体障害者施設で喫茶活動を続けて、卒業後もOGとして関わりました。大学生になって予定が合わなくなり、活動に穴が空いてしまったんですけど、久々に行くと、中学生の時から知っている利用者さんたちが「あんな顔、覚えてるよ」「あんなはここに来なあかんがね」という言葉をかけてくださった。自分の居場所はここにあるんだなと感じられて、続けてきてよかったなと思いました。一方で、ボランティア活動をしていることを人に言うのが怖くなった時期がありました。お手本にされたり、褒められたりする機会が増えていくうちに、「自分はそんなにすごい人間じゃないし、そんなにすごいことしてないのに」と、重荷に感じることもあったり、同級生が離れてしまった時期もありました。

佐藤 ボランティアを始める前は、歩いていてもごみのことにあまり気がつかなかったのですが、ボランティア

をやっていくうちに回りを見るようになった。そういう気づきが自己成長かなと思うし、どうしたらタバコのポイ捨てがなくなるかなど、問題の対策を考えるようになったのもよかったこと。もともと社交的な方ではなかったのですが、今はいろんな人と話して関わりができることがうれしい。ボランティアじゃなくても楽しくやるのが大切で、楽しくないと充実感もないし、続けることもできないと思います。今は運営側にいるので、やるべきことが多く責任も重いので、正直しんどいなと思うことはありますが、回りの支えや頼りにしてくれる人のおかげで、つらいことがあっても乗り越えていっています。

下郷 海外の物資支援の活動では、物資を渡す時の写真や動画を撮ってきてもらうんですけど、それを見た時は本当にうれしくて、しゃべったこともない海外の子どもたちとつながったんだという喜びと、自分たちのやったことがちゃんと届いたんだという充実感を味わえる。やってきてよかったなと思います。悩みは、勉強と部活とボランティア、この3つの両立をどうするか。全部をどうがんばっていかうかと。今は2年生なので、勉強をしっかりやる時期なんですけど、ボランティアもやりたいし、部活もやりたいという葛藤がすごくあって。今の自分に合った活動量というのを考えていかなきゃいけないなと思ってます。大学に入れたら思う存分やれるので!

藤本 センターのスタッフとしては、学生に合ったボランティアを紹介して、その学生が実際に活動してきた報告を聞いて、活動してよかった!という瞬間を見られること。じゃあ、今度はこれをやってみようか、次につながる瞬間が、一番うれしい。個人的には、ボランティアを通していろいろな人に会えること。私はポジティブパワーをくれ

